

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	応用物理演習 I
科目基礎情報					
科目番号	3E011		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	物理学演習問題集 力学編 原・右近 学術図書 9784780601701				
担当教員	五十嵐 睦夫				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 簡単な微積・ベクトルの計算ができる。 <input type="checkbox"/> 物体の運動を理解できる。 <input type="checkbox"/> 簡単な振動問題が解ける。 <input type="checkbox"/> 角運動量の保存則を理解できる。 <input type="checkbox"/> 剛体の運動方程式を記述できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	運動方程式をよく理解でき、十分説明できる。	運動方程式を理解でき、説明できる。	運動方程式を理解できず、説明できない。		
評価項目2	1次元、2次元、3次元の運動をよく理解、十分説明できる。	1次元、2次元、3次元の運動を理解し、説明できる。	1次元、2次元、3次元の運動を理解できず、説明できない。		
評価項目3	質点系、剛体の運動をよく理解し、十分記述できる。	質点系、剛体の運動を理解し、記述できる。	質点系、剛体の運動を理解できず、記述できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	必要に応じて簡単な説明をする。その後、教科書にある問題等を各自で解いて行く。				
授業の進め方・方法	(a)微積分学を用いた力学を理解する。 (b)速度や加速度が、位置や速度の時間微分であることを理解する。 (c)以上により数理的に運動を記述する方法を身につける。 (d)質点の運動方程式を記述できる。 (e)力と加速度をきちんと定式化する。 (f)質点系、剛体の運動を理解する。 ・電子メディア工学基礎演習に引き続き、専門工学基礎としての英単語学習を継続する。高専機構が掲げる「英語で仕事ができる高専生」に準拠した取り組みの一環である。				
注意点	・自分が解けなかった問題を復習し、解きなおしてみること。 ・ベクトル、偏微分、重積分の知識が必要となる。 ・何にも増して自己学習が必須である。 ・成績比率は以下のとおりとする。大小テストに対して真摯な対応をすることが単位取得の要である。 課題 40% 小テスト 10% 大テスト 40% 中間試験 5% 定期試験 5% ・上記による成績では合格点に満たない場合、追加課題および試験が課される。それへの取り組みが単位取得の条件となる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	運動の法則 1	位置、速度、加速度と微積分・運動の3法則・運動量と力積・運動量と保存則について理解する。	
		2週	運動の法則 2	運動エネルギー、保存力とポテンシャル、エネルギー法則について理解する。	
		3週	質点の運動 1	1次元の運動について理解する。	
		4週	質点の運動 2	1次元の運動について理解する。	
		5週	質点の運動 3	1次元の運動について理解する。	
		6週	質点の運動 4	平面内の運動について理解する。	
		7週	質点の運動 5	平面内の運動について理解する。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	質点系の運動 1	基本的2体問題を理解する。質点系の運動量・角運動量・運動エネルギーについて理解する。	
		10週	質点系の運動 2	質点系の運動に関する基本的問題を理解する。	
		11週	剛体の運動 1	剛体の基本的運動について理解する。	
		12週	剛体の運動 2	慣性モーメントとその計算について理解する。剛体の運動エネルギー、運動量と角運動量について理解する。	
		13週	非慣性系における運動	慣性系、重心系と実験室系、運動座標系について理解する。	
		14週	中心力	中心力のある場合の質点の基本的な運動を理解する。	
		15週	前期定期試験		

		16週	答案返却	試験に関する説明が理解できる。
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	48	32	80
専門的能力	12	8	20